



- 早期入牧による草地維持（ノシバ主体草地）
- 経営頭数の2/3を放牧し低コスト・省力化
- 放牧期間中における子牛育成スペース確保

1 地域の概要

畑放牧場がある養父市は、兵庫県北部但馬地域の西南部に位置し、西は鳥取県に接し、東・南は朝来市に接している。また周囲を1,000m級の急峻な山々に囲まれ、河川は東から西に円山川の支流が流れ、それに沿って集落が点在している。市域のほとんどが山村振興地域に指定されており、地域面積の8割が山林で耕地はわずかである。気候は日本海岸式気候に属し、積雪寒冷単作地域であり夏は高温多湿、冬は寒冷で積雪量も多い。

養父市の耕地面積のうち、田が77%、畑が23%を占め、農業算出額42.5億円のうち耕種が41%、畜産が59%となっている。家畜の飼育頭数は乳用牛262頭、肉用牛1,400頭（繁殖600頭、肥育800頭）となっている。



2 経営の概要

経営主の田村正宏氏は、昭和49年に繁殖和牛8頭で経営を始めた。その後自家保留を中心に規模拡大をすすめ、平成12年より現在の飼養頭数となり今に至っている。現在飼養頭数は肉用繁殖牛40頭で、労働力は本人と妻の2名。

放牧管理は正宏氏が中心におこなっている。

現在の経営面積は水田17a（転作作物として牧草作付）、畑24a（内14a牧草作付）放牧地12.9haとなっている。

経営面積の内訳

地目	面積	備考
水田	17a	牧草作付
畑	24a	内 10a 牧草作付
その他	1,290a	放牧地



【田村 正宏氏】



【田村氏 牛舎】

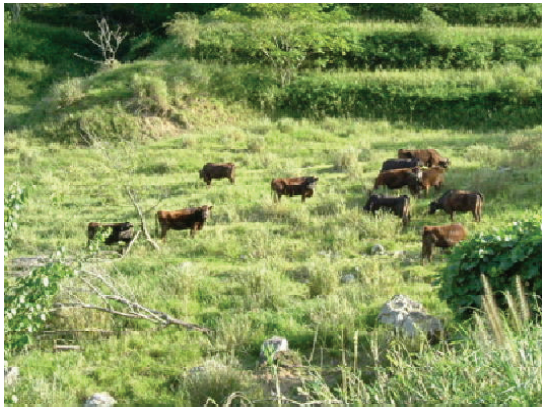
3 取組の経緯

平成11年山地畜産確立促進事業により、遊休桑園をパイプ柵、飲水場、給餌場（連動スタンション）を整備した。放牧場の牧養力を高めるため、ノシバ苗を植え付け、トールフェスク等の牧草播種を行い、蹄耕法により草地造成を行った。現在、畑放牧場のほか1カ所で放牧を行っており、25頭を放牧している。

4 放牧の概要

放牧利用面積は9.4ha、放牧頭数は18頭（平成19年実績）であり、放牧期間は5月中旬から10月下旬までである。

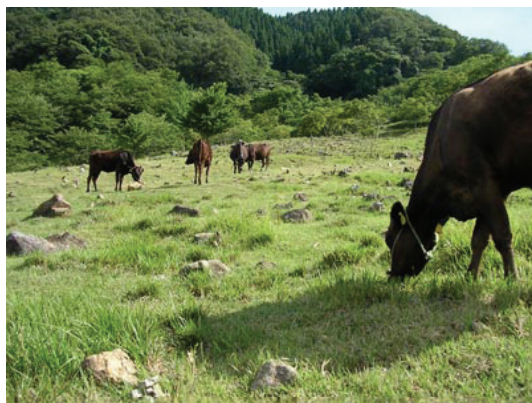
- ・放牧中の補助飼料として、フスマを1日あたり1.2kg/頭を給与している。
- ・入牧時および入牧1ヶ月後、2ヶ月後、計3回バイチコールによる駆虫を実施している。
- ・早期放牧に努め、ノシバ主体の草地を維持管理している。
- ・放牧地の利用料は行政が仲立ちとなり、年間利用料50,000円を畑地区に支払っている。



【放牧風景1】



【放牧風景2】



【ノシバ主体の草地】



【桑園跡地での放牧】

5 放牧の特徴

- ・遊休地であった桑園を放牧地として再整備し有効活用
- ・他の放牧地を含め、経営頭数の2/3を放牧し、母牛管理の省力化および飼料費削減による低コスト化
- ・放牧期間中における子牛育成スペースの確保による子牛市場への対応

執 筆 協 力・問い合わせ先 八鹿農業改良普及センター 出水 T E L : 076-662-6175
